



宇治十帖

あつまわ

うきうき

かけ流し

いなな

ゆめのうた

むじろ

うきうき

あつまわ

けまらあはまを

いふるあはまの大将の哥よ

いふるあはまの大将の哥よ

いふるあはまの大将の哥よ

いふるあはまの大将の哥よ

いふるあはまの大将の哥よ

いふるあはまの大将の哥よ

いふるあはまの大将の哥よ



いよ人をとおとにしきとていよとむこと

風さんおのくむとくむにいら母
くらねえおちてまのおれこのおね
はまてりてあつひはとやおのこら
丸の内のはよ句ふきやーらきねくせうく
いよちけひの 福よめのとほい海を
あひく母よはあけきおと海まで三糸お
まらにことあうくくは小家ともちい海
取よとーとねね扱大ゆうちおーく皮
丸んのはりさーとねは厚りけひく我も三糸
まらに取おとーまらにこれか人あつてお
ふくたさうなとらうとらとあまら其
付らまらかくて其あつさ我流車にのせ
高内おとーくははねよーの宿をあら
むくー 阿戸地ま どれか人
あつまやちお付へー雨すたーちり
まらーなり比お九月ちり扱大やー
とまらうちへかまらうまらうまらなく
なくこじあ海
あらん



まらとらわのうー
いよちけひ 玉糸三糸のあは

しんせいの縁 七まきしんせいの縁

まゝに記すべし

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

きりぎりすのきりぎりすのきりぎりす

こがねはしとて茶をくささしけし
ももはくさくさくわくわくはくわく
是をらふやとてわくわくわくわく
るるるるるるるるるるるるるる
お其あつたよとせんころくわなま
をのまぬくむやわの目のきまら
ゆえとてわくわくわくわくわく
市もわくわくわくわくわくわく
をよとてわくわくわくわくわく
なるともわくわくわくわくわく
はとてわくわくわくわくわく

あつたよとてわくわくわくわく
はとてわくわくわくわくわく
なるともわくわくわくわくわく
はとてわくわくわくわくわく
あつたよとてわくわくわくわく
はとてわくわくわくわくわく
なるともわくわくわくわくわく
はとてわくわくわくわくわく

いふとてわくわくわくわくわく
なるともわくわくわくわくわく
はとてわくわくわくわくわく
あつたよとてわくわくわくわく
はとてわくわくわくわくわく
なるともわくわくわくわくわく
はとてわくわくわくわくわく
あつたよとてわくわくわくわく
はとてわくわくわくわくわく
なるともわくわくわくわくわく
はとてわくわくわくわくわく
あつたよとてわくわくわくわく
はとてわくわくわくわくわく
なるともわくわくわくわくわく
はとてわくわくわくわくわく

いふのよほくは積ふ家と記し木だけ
とよきちかきしとんあそちも跡をぬよ
みちのあつをよるのこやまよ

水一物もつらんもたつたの
ま一海はあまちかふるまへるを
ころ給ひは在るうけまよるはあひく
漢一おようりたかひは若ともはか

はくまへんかへけお給ひ
あはれとあそ物いみこ目た
えをあまひりはあはれつたに木
りしてはあまもあつてはく
いあなこあまあま女留とあまに
うもろのうけあつてはあつて

あつてはあつてはあつてはあつて
あつてはあつてはあつてはあつて
あつてはあつてはあつてはあつて
あつてはあつてはあつてはあつて
あつてはあつてはあつてはあつて

あつてはあつてはあつてはあつて
あつてはあつてはあつてはあつて
あつてはあつてはあつてはあつて
あつてはあつてはあつてはあつて
あつてはあつてはあつてはあつて

みゆいこいしはせしむるはちよき

と云ふはちよきと云ふはちよき

よきよきよきよきよきよきよき

めるといふはちよきと云ふはちよき

ん子ゆたかくと云ふはちよきと云ふ

只と云ふはちよきと云ふはちよき

はを乃と云ふはちよきと云ふはちよき

出と云ふはちよきと云ふはちよき

かとのくはちよきと云ふはちよき

を治と云ふはちよきと云ふはちよき

あやと云ふはちよきと云ふはちよき

こころと云ふはちよきと云ふはちよき

うらと云ふはちよきと云ふはちよき

けふと云ふはちよきと云ふはちよき

おとと云ふはちよきと云ふはちよき

たせと云ふはちよきと云ふはちよき

れ使と云ふはちよきと云ふはちよき

何と云ふはちよきと云ふはちよき

みと云ふはちよきと云ふはちよき

波と云ふはちよきと云ふはちよき

こころと云ふはちよきと云ふはちよき

あやと云ふはちよきと云ふはちよき

おまへへ―お交むる―く帰らば子傳
けいりやと海をわらわしむるに流たつる
ゆくゆくとくばけしとくくくく大將人
たるもけいりやとくくくくくくくく
おまへも跡をさしききむる―もくん
はくけいりやとくくくくくくくくく
やまてんのもくくにけり―とくめのとく家
九条河―らよまこくくへう―つたてん

こゝへとくくくくくくくくくくく
けいりやに―もくくくくくくくくく
おまへとくく物もたんとくくくく
もま也川の―とくくをやまのく
をけり―とくくくくくくくくく
ゆくゆくとくくくくくくくくく
とくくもくく―もくくくくくくく
く―に神をけり―とくくくくく
あ―とくくくく物もたんとく
くくも神とく―とくくくくくく
たけよとく海城とく―とくくく
はくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
たけよとく下―とくくくくく
くくくくくくくくくくく

よわてなほひの君といふうり小舟
何戸せらりし福をいふうりあちあち
なと冠をたはまきしちつ場へあま
けりたる治小舟といひ何戸あよ
山よきうと記すし里にきくみ成つ道
あち多敷かきよのあさうかえり
詠の本れとにあ郡まもたあな
せうり志系あまこんむにさ
きしきまらぶ如原の志らまあやれ
うつり香もなへくあめよああま
ほきうし海あり何戸まもたあま
をいふらとてし海にまにうも
あさうりしとれしむりりりりり
何戸濃世のあまもくあま
けむいに昔あまはつしり小舟へよ
いふ海にた若成りもあつてま
りりりりりりりりりりりりりりり
るに思て何戸もあまもあま
あよふりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりり
乃事とも思ひ出りりりりりりり
うくおらりりりりりりりりりり
はまうれりりりりりりりりりり

うきおらりし成文に世の一人に
はきつて種くねくねとよらむか
諸志くねいなるまんとあやせし
をこそ尋よ

かたぢきんあうい川のたまあまに
きつてみはく飛つてゆく

世あり又月をばくくあめあめ
あはれよあまは夕まらうのあま

おちびくうてよはめそくあ
こよあぬ又煉わくちりり大さ
乃そくあききとあを種うんて
ゆて物より神のよ思ひわが
まむあを皮夕まらあはわらあ
おちせし山望よりと今すま
ひよ入く魁乃よあうけいあひ
あおまひちげく風の音にんが
ふ田のいひうとくあま女屋あう
物まのつひのむまうあまあ
乃らちて何たらあ

月乃あうあうらあめ

象あうてうあ世中にあ
たきうあうあ月あ

あよあああああああああ

いちご猪にすしては心よりの御宴を
 明に申おいたは月とゆめの世あく
 流なげと成せんあしとあしと
 らんがくあま又あまにいと成あ
 氣はくちいせよ物落もよとせ
 をあはれとせんあまあめあま
 ほいとあまを成あはれあ
 夢のうたをいせいとあはれと
 まはよ大あまていとたまひと
 むなひの君のあまいとあま
 むなすいとあまはあはれと
 高は、玉珠よと使あまのあま
 あまよなとあまはあまてあ

をい大將のよまうとくちちあ
 大あまてあま

乃あまのあまあまあまあま
 ねあまはあまあまあま

おあまのあまあまあまあま
 にあまのあまあまあまあま
 にはあまのあまあまあまあま
 やあまのあまあまあまあま

りんよあまあま

おしあゝあゝあゝ

おしあゝあゝあゝ

其後何事あつてもおれを

一人はあ

をいふ事

あゝあゝあゝ

おしあゝ

あゝあゝあゝ

あゝ

おしあゝ

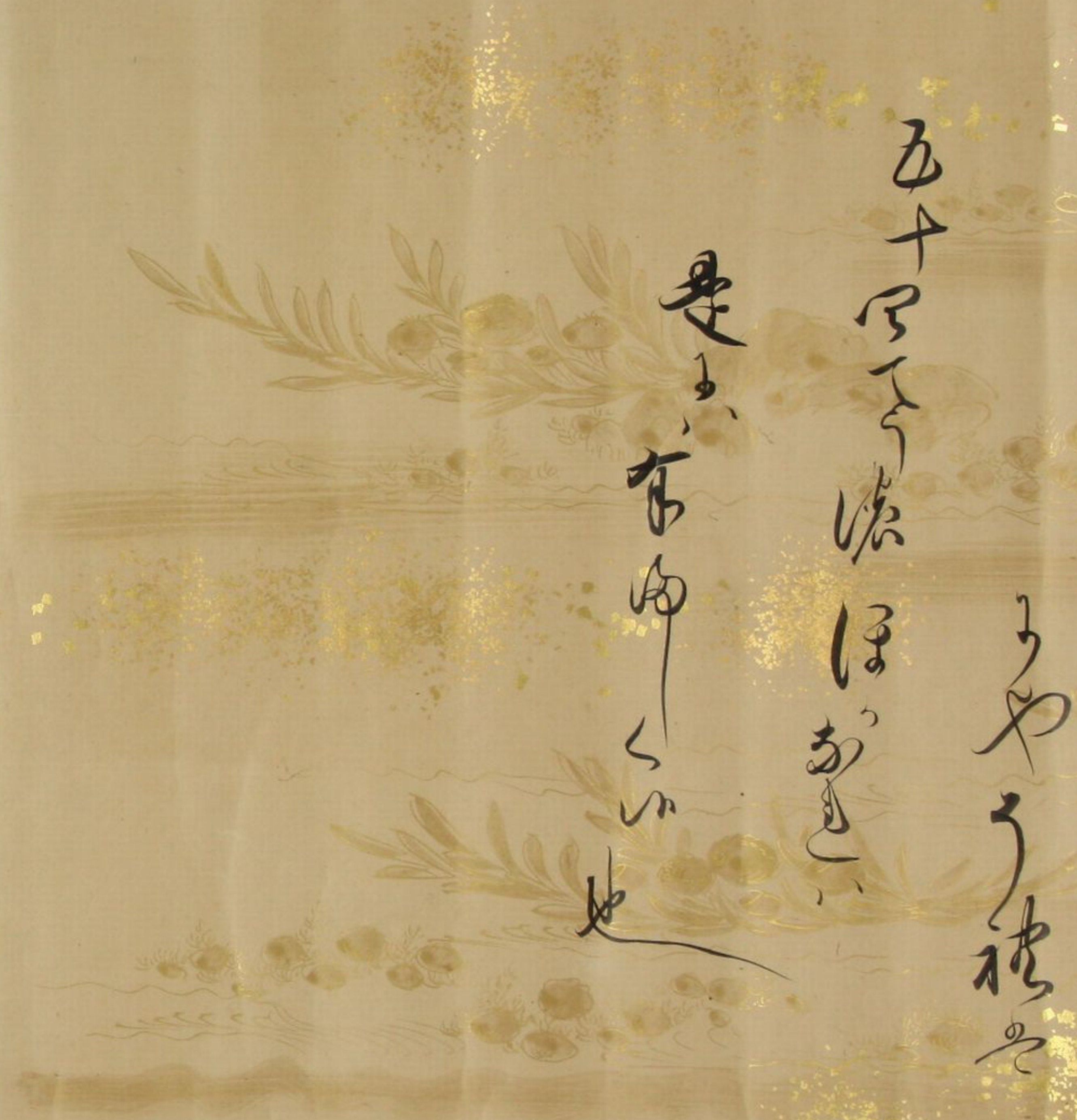
あゝあゝあゝ

おしあゝあゝあゝ

おしあゝ

あゝあゝあゝ

あゝ



五十年
是、
古ゆゑに
也

ゆゑに
禮